

PMR 資格試験への挑戦 1

戦略とプロジェクトをつなぐ P2M の実感

濱野 博之

■ 受験動機

私が PMR 試験に挑戦した背景は、金融分野の各システム開発に携わる中で、複数のプロジェクトを並行して推進する立場となり、個々のプロジェクトを成功させるだけでは十分ではないと感じる場面が増えてきたことでした。制度改正や技術進化、顧客ニーズの高度化など、金融を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、それぞれのプロジェクトをどのように位置付け、全体としてどのような意味や価値を持たせるのかを意識する必要性を強く感じるようになったことが契機でした。

プロジェクトを単体で捉えるのではなく、相互の関係性を踏まえて束ね、組織として価値を生み出していく。そのためには、経験や個別最適の判断だけでなく、戦略と実行を結び付ける体系的な考え方が必要であると考え、P2M を学び PMS を取得し、ステップアップとして PMR 試験に挑戦することを決意しました。

■ 受験の感想

試験を振り返ると、論述試験、面談、グループワークを通じた、抽象度の高い問いに向き合う場面が多くありました。正解が 1 つとは限らない問いに対し、限られた時間の中で前提条件を整理し、論点を構造化したうえで、自身の判断を言語化し、相手に伝えることの難しさを改めて実感しました。

日常業務では無意識に行っている思考や判断も、あらためて整理し、第三者に伝わる形で示すことは容易ではなく、試験ならではの緊張感もありました。一方で、全体最適や中長期の視点を意識して考える姿勢については、これまでの実務経験を通じて培ってきたものを活かすと同時に、それらを効果的に行う術・思考を学べたと感じています。

また、試験を通じて、自身の考え方や判断の癖、強みや弱みに向き合う機会を得られたことも、大きな学びとなりました。結果だけでなく、その過程を振り返ることで、今後の実務において何を意識すべきかを考えるきっかけになったと感じています。

プロジェクトマネジメントの次に、プログラムマネジメントを意識することは適切なステップアップと考えています。自己研鑽の意味を兼ねて、PMR 養成研修を受け、試験のイメージをつけて臨むのが良いと思います。

■ PMR としての展望

合格後は、多くの事業を抱える組織において、P2M を用いて戦略からプログラムを描き、戦略的にマネジメントしていくことが重要になると考えています。複数のプロジェクトを一体として捉え、戦略と価値を結び付けながら運営することが、これまで以上に求められるのは言うまでもありません。

プロジェクトをプログラムとして意味付けし、全体を俯瞰しながら統合的にマネジメントするために、P2M を実務の中で使い続けていくことが、PMR としての今後の展望です。

日々の実践を通じて、価値創出につながる、よりよいマネジメントへとつなげていきたいと考えています。



【プロフィール】 濱野 博之(はまの ひろゆき)

日本電気株式会社 金融システム統括部 シニアプロフェッショナル

入社以来、一貫して金融システムに従事。

銀行勘定系システムをはじめ、対外接続系、API 接続 GW システムやリテール決済システム (SaaS 型、オンプレ型) 等のプロジェクトマネージャーなどを経て、2023 年より現職。

現在は、某大手銀行やカード会社向けの金融システムの企画・開発に従事。